23. 血中ミオグロビンの RIA について

黒田　彰　矢田部タミ
稲葉　妙子　村田　啓
千葉　一夫　川口新一郎
野口　雅裕　山田　英夫
飯尾　正宏
（東京都養育院・核放）

ミオグロビン (Mb) RIA キット（栄研）の迅速測定法について検討した。標準測定法を用いて若年健常者，老人健常者と心筋梗塞症例の値を求めた結果は，23.8±9.7 ng/m*l*, 29.1±9.2 ng/m*l*, 324.1±571 ng/m*l* と心筋梗塞症例において有意な上昇を認めた．pre-incubation 時間の変化に対する各標準濃度の Bound % への影響を検討した．時間の経過に伴い感度の上昇を認めたが，5 分の incubation でも各濃度における結合率の差は十分得られた．同様の試験で 3 種類の control 血清の値を求めたが，再現性は低濃度 (20 ng/m*l* 以下) 以外では良く一致していた．同一キットを用い，標準測定法と迅速測定法によって求めた値の相関性は r=0.976 Y=1.083 X−0.02 と極めて良い相関を示した．同一ロットのキットを用い，入荷直後から 1 週間ごとに迅速測定を行ない，各標準濃度における結合率を検討した．結果は 2 週目まで Bound % がしだいに低下し，3 週目では高濃度域で Bound % の上昇を示した．同様に 10 検体の測定をくり返して行なった結果は，変動係数で示すと 10〜15% で，Mb 血症の高低を判別するには十分な再現性と考えられる．また標準測定法によって求めた再現性は intra-assay で平均 3.94%，inter-assay で平均 10.3% と良い結果を得た．

24. T_3-Uptake MAA kit の検討

増田　由美　増岡　忠道
三本　重治　新開　秀幸
（日本鋼管・アイソトープ）

目的：甲状腺機能検査の T_3 摂取率測定用 kit である T_3 uptake MAA kit について検討した．

方法：血清 50 μ*l* に ^{125}I-T_3 の含まれている MAA 溶液 1 m*l* を加え，10 分間 incubation の後，遠心して上清を除き沈殿を測定する．% T_3 uptake

$$\text{MAA 値} = \frac{\text{標準血清の}}{\%T_3\ \text{Uptake 値}} \times \frac{\text{検体血清のカウント}}{\text{標準血清のカウント}}$$

結果：1) 本法は使用血清量 50 μ*l* と僅少，手技も簡略で，短時間で測定が可能であった．2) incubation は温度，時間の制限を受けず，精度，再現性も共に良好であった．3) 本法と同原理に基づく TRIOSORB-M kit との相関は，相関係数 0.955 と高い相関を示した．4) 本法と T_4-RIA kit II (PEG 法) との相関は，相関係数 0.862 であった．5) 健常者と甲状腺機能低下症との間に一部重なりが認められたが，添加 MAA 溶液量を規定の 1 m*l* より増すことで多少改善されるのではないかと推定された．6) T_3 uptake MAA 値と T_4 値との積である FTI 値に換算するとより一層，甲状腺機能を反映した．7) 本法における正常域は 25.3〜32.7 % であった．

25. スパック T_4 の基礎的ならびに臨床的検討

黒田　裕子　伊東裕美子
榎本　仁志　入江　実
（東邦大・1内）

われわれは，抗 T_4 抗体を試験管壁に固定化してあるスパック T_4 RIA キットについて，その基礎的ならびに臨床的検討を行なった．

測定方法：標準血清，および被検血清 25 μ*l* を，抗体固定化チューブに入れ，全てのチューブに，T_4-^{125}I 溶液を 1 m*l* ずつ加え，緩やかに混和し，37°C の温浴で，60 分間インキュベーション終了後，チューブ内液を除去した．チューブ内の放射能 (B) を測定した．

結果：インキュベーション時間と，温度についての検討では，37°C, 60〜90 分間が，良い結果が得られた．種々甲状腺ホルモン誘導体との交叉性の検討では，3, 3′, 5-triiodo-D-thyronine では 1%, 3, 3′,5-triiodo-L-thyronine では 6% であった．前者は体内に存在しないので，また，後者は，

Presented by Medical*Online